様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２６２０
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１７４３７

研究課題名（和文）”観察能力”の向上に特化した看護過程事例展開のe-Learning学習教材の開発

研究課題名（英文）Development of e-Learning Learning Material for Developing Case Studies of Nursing Processes Focusing on the Improvement of "Observation Skills

研究代表者
齋藤　雪絵（Yukie, Saito）

順天堂大学・医療看護学部・助教

研究者番号：２０７１４８０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、看護過程の事例展開に沿ったリアルな動画教材を用いたe-Learningの学習教材を作成することである。当初は、看護過程を展開することに重き を置いていたが、アセスメント部分において臨床推論を活用することが重要であると考え、臨床推論力を育成することを目的とした看護過程の事例展開に沿っ たリアルな動画教材を用いたe-Learningの学習教材を作成することとした。そのための資料として、初めての臨地実習において看護過程の「アセスメント」と 「診断」の部分についてどんなことを考えていたかの現状の把握と困難であったことについて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
臨床判断に至るまでの臨床推論のプロセスについて着目した学習教材を作成することで、臨地実習に行く前の学内演習等で「気づく」、「見る」といった観察の練習ができる。さらには、臨床推論のきっかけを掴むことや、何度も練習することで、自身が経験したものとして臨床現場で活用できると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to create e-Learning learning materials using realistic video materials that follow the development of a nursing process case study. Initially, we focused on the development of the nursing process, but we decided to create e-Learning learning materials using realistic videos of case studies of the nursing process for the purpose of fostering clinical reasoning skills, as we believe it is important to utilize clinical reasoning in the assessment part. As a resource for this study, we sought to understand the current state of thinking about the "assessment" and "diagnosis" parts of the nursing process during the first on-site training, and to clarify what difficulties they encountered.

研究分野：看護教育学

キーワード：観察能力　看護過程　e-Learning　学習教材　臨地実習　臨床推論

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

2019 年厚生労働省「看護基礎教育検討会報告書」において、看護職者は、人口及び疾病構造の変化や療養の場の多様化等を踏まえ、多職種が連携して適切な保健・ 医療・福祉を提供することが期待されている。そのため、患者の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められ、特に、臨床推論や臨床判断が必要であると指摘された。臨床看護を科学的根拠に基づいて判断し実践することが重要であることから、必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養うよう明記された。

Tanner（Tanner，2006）は、看護における臨床判断を「患者のニーズ、関心事、健康問題に関する解釈や結論、行為をするかしないか、標準的なやり方を用いるか、変更するか、または患者の反応によって適切だと考える新たなことを即興で行うかの決断」と定義し、看護学生には“看護師のように考える”ことを推奨している。さらに、看護師が判断する過程を指す言葉として、臨床推論という言葉を用いており、「臨床推論とは、看護師やその他の臨床家が判断を下すプロセスを指す言葉であり、選択肢を生み出し、それらを証拠と照らし合わせ、最も適切なものを選択する意図的なプロセスと、実践的な推論として特徴づけられるパターンの両方を含む。」と定義している。

看護実践には、科学的かつ論理的な思考力を基盤とした問題解決能力が求められ、看護師は、患者の看護目標達成に向けて、「アセスメント」、「診断」、「計画」、「実施」、「評価」の５つの構成要素から成る系統的な活動である「看護過程」を展開する。看護過程を初めて学ぶ看護学生にとって観察から得たデータを看護の視点から分析・解釈するアセスメントは、特に困難さがあることを多くの論文が報告している（河村，2015、村上，2018）。初学者が学習するのに多く使用されるヘンダーソンの看護理論を用いた看護過程の展開（秋葉ら，2018）において、情報を分析・解釈するアセスメントは、観察した主観的データ・客観的データを基本的欲求の項目ごとに未充足かを判断し、未充足状態の原因・誘因を明らかにすることで、生活行動に必要な援助を考える段階である。アセスメントでは、関連図を作成し思考を整理する、データとデータとを関連づけて考えることになるが、これだけでは症状の進行や患者の状況、その背景にあるものにまで目を向けて思考するには限界がある。つまり、この過程で臨床推論を活用することが必要となり、症状や兆候の進行、患者の反応、その状況の背景など様々なことに目を向け、既習の知識や学生自身の経験を関連づけて論証する。その結果から新たに情報収集することや、より深く分析・解釈することが可能となり、患者にとって適切な看護を提供することに繋がる。すなわち、看護基礎教育において、患者に適切な看護援助を行うかどうかを判断するまでのプロセスである臨床推論力を育むことが重要である。

以上のことから、臨床判断に至るまでの臨床推論のプロセスについて着目し、臨地実習に行く前の段階である学内演習等で「気づく」、「見る」といった観察の練習をすることで、臨床推論のきっかけを掴み、サイクルを回すことを何度も訓練することができる。それにより、臨床現場で活かされ、自身が経験したものとして活用できるのではないかと考える。さらに、看護過程を展開する事例を用いることで、臨地実習と相互補完を可能にすることができると考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、看護過程の事例展開に沿ったリアルな動画教材を用いた e-Learning の学習教材を作成することである。当初は、看護過程を展開することに重きを置いていたが、アセスメント部分において臨床推論を活用することが重要であると考え、臨床推論力を育成することを目的とした看護過程の事例展開に沿ったリアルな動画教材を用いた e-Learning の学習教材を作成することとした。そのための資料として、初めての臨地実習において、看護過程を習得中の「アセスメント」と「診断」の部分についてどんなことを考えていたかの現状の把握と困難であったことについて明らかにした。

３．研究の方法

研究対象者は、初めて患者を受け持つ臨地実習を履修した看護系大学 3 年生 10 名である。看護系大学の選定条件は、急性期医療や先進医療が行われている大学病院への就職する看護学生が半数以上、急性期医療や先進医療が行われている大学病院で臨地実習を行っている、カリキュラムで「フィジカルアセスメント」、「看護過程」を開講している看護系大学とした。本研究の主旨を説明し協力を得られた 2 施設の看護学生にインタビューを実施した。対象者 10 名のうち男性が１名、女性が 9 名であり、全て病院実習だった看護学生は 2 名、全てオンライン実習 5 名、

病棟実習の途中からオンラインに変更となった看護学生 3 名であり、実習形態はさまざまであった。面接内容から逐語録を作成し、記述内容の意味を損なわないように留意しコード化し、類似するコードをカテゴリー化する。分析の全過程において、質的研究に精通した研究者にスーパーバイズを受け、分析の妥当性を確保した。本研究は、順天堂大学医療看護学部研究等倫理委員会の承認を得て実施した。この研究結果を基に、看護過程の事例展開に沿ったリアルな動画教材を用いた e-Learning の動画を作成した。

４．研究成果

１）看護学生の「アセスメント」と「診断」の部分における現状と困難

分析の結果、10 のカテゴリー、5 のサブカテゴリーが抽出された。抽出したカテゴリーは、分析の結果、【情報収集するための事前の土台作り】【決められた視点から観察してみる】【膨大な情報の中から必要なデータを探し出す】【データに裏付けられた個別性のあるアセスメントをする】【妥当な看護問題を抽出する】【妥当な看護計画を立案する】【根拠のある行動をとる】【自分の行動を振り返り評価する】【学生だから、オンラインだからと言い訳をする】【臨床推論を現場に適用するために様々な制約に苦戦する】の 10 カテゴリーが抽出された。

看護学生は、観察することの難しさや膨大なデータに埋もれてしまうことが明らかになった。臨床推論力の現状としては、臨床推論の一部を思考できていることがわかった。今後、臨床推論の思考内容を教育することで看護学生の臨床推論力が育成される可能性がある。

この結果を基に、看護過程の事例展開に沿ったリアルな動画教材を用いた e-Learning の動画を作成した。

２）e-Learning の動画の作成

動画の作成には、看護学生が困難と考えている視点と、臨床推論の視点を考慮し、内容を抽出し精選し、学習目標を設定した。その内容は、原因と誘因を結びつける、今あるリスクと今後を予測する、患者の入院前と今を照合する、優先順位の基準を考える、データの取捨選択ができる、自分の優先順位の基準を考える、と言ったことを考えられるような教材になるよう、それらの観察視点が入り、学生が観察できる動画を作成した。また、リアルな動画となるよう、患者や病室や Bed、周囲の環境に注意した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関